

Europe Indicators

発表日:2023年11月1日(水)

欧州経済指標コメント:7-9月期ユーロ圏GDP

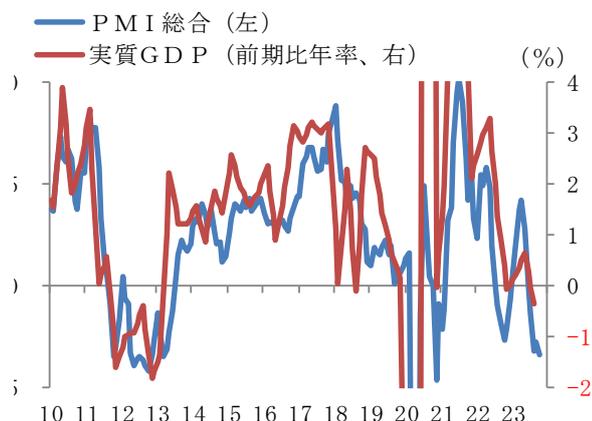
～3四半期振りのマイナス成長～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel:050-5474-7494)

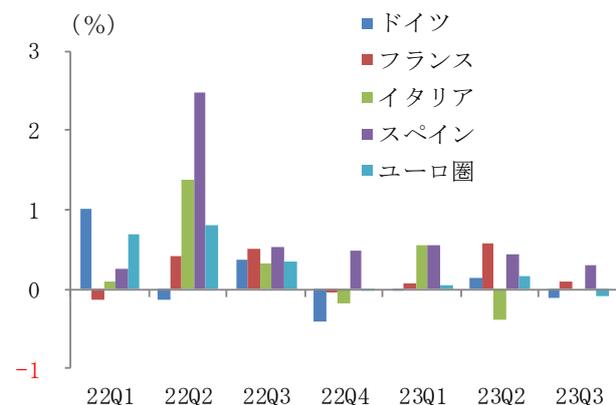
- 10月31日に発表された7～9月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比▲0.1%、同年率▲0.4%と、2022年10～12月期（同ゼロ%、同年率▲0.1%）以来のマイナス成長を記録した。各種の月次指標が示唆する通り、景気に一段のブレーキが掛かっている。なお、過去3四半期が遡及改定（改定前は昨年10～12月期：▲0.1%→1～3月期：同+0.1%→4～6月期：同+0.1%、改定後は同ゼロ%→同ゼロ%→同+0.2%）。実質GDPの水準は、コロナ危機以前の2019年10～12月期と比べて3.0%高い。
- 速報段階で公表済みの国別内訳は、ドイツ（前期：同+0.1%→今期：同▲0.1%）、オーストリア（同▲0.8%→同▲0.6%）、ポルトガル（同+0.1%→▲0.2%）、アイルランド（同+0.5%→同▲1.8%）などがマイナス成長、イタリア（同▲0.4%→同ゼロ%）がゼロ成長、フランス（同+0.6%→同+0.1%）、スペイン（同+0.4%→同+0.3%）が減速、ベルギー（同+0.3%→同+0.5%）が加速した。統計捕捉上の問題で速報段階での振れが大きいアイルランドを除くユーロ圏の成長率は同ゼロ%。
- 速報段階では需要項目別の内訳は公表されないが、既報の国別計数の動きは区々。概要のみ公表されているドイツは、設備投資がプラス寄与の一方、個人消費がマイナス寄与。フランスは、個人消費（同+0.7%）と設備投資（同+1.5%）が成長を牽引した一方、輸出（同▲1.4%）と在庫投資（同▲0.3%ポイント）が押し下げに働いた。スペインは、個人消費（同+1.4%）が成長を牽引したものの、総固定資本形成（同▲0.4%）と輸出（同▲4.0%）が景気を下押しした。
- 10～12月期入り後の景気指標は、10月のユーロ圏の総合PMIが5ヶ月連続で好不況の分岐点を下回り、前月から一段と下落モメンタムが加速した一方、10月のドイツのIfo企業景況感が6ヶ月振りに前月対比で改善するなど区々。全体としては、金融引き締めの効果浸透や中国景気の減速が景気の足を引っ張る一方、インフレ率のピークアウトと賃上げによる実質購買力の回復が景気を支える構図。アイルランドの特殊要因を除けば、7～9月期もソフトデータが示唆する程、経済成長率は悪くなかった。10～12月期も景気停滞が予想されるが、大幅な減速は回避されよう。

■ユーロ圏：PMI総合と実質GDP



出所：S&P Global、欧州統計局

■ユーロ圏主要国の実質GDP成長率 (前期比)



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP(前期比年率< % >、括弧内は寄与度< %ポイント >)

	名目 GDP	実質 GDP	内需					外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入			
21/10-12月期	6.4	2.1	(6.6)	1.4	1.7	14.2	(2.8)	▲ 4.5	11.9	24.5	
22/1-3月期	8.5	2.8	(▲ 0.3)	▲ 0.1	1.8	▲ 2.0	(▲ 0.2)	3.1	6.7	0.6	
22/4-6月期	8.3	3.3	(2.7)	3.7	▲ 0.8	2.0	(0.5)	0.6	8.5	8.0	
22/7-9月期	5.2	1.4	(3.5)	4.0	▲ 0.2	4.7	(0.5)	▲ 2.1	3.9	9.0	
22/10-12月期	8.1	▲ 0.1	(▲ 1.9)	▲ 2.9	1.9	▲ 1.0	(▲ 0.5)	1.8	▲ 0.6	▲ 4.2	
23/1-3月期	8.2	0.2	(▲ 1.8)	0.6	▲ 2.2	1.7	(▲ 2.0)	2.0	▲ 0.2	▲ 4.2	
23/4-6月期	2.2	0.6	(0.8)	0.4	0.8	▲ 0.8	(0.0)	▲ 0.2	0.8	1.2	
23/7-9月期	-	▲ 0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。